

# 令和8年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：25505

学校名：清田南小学校

	令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果		分析
体力・運動能力 <男子>	○全国平均と同程度 もしくは上回った種目 握力 ソフトボール投げ 50m走	○全国平均を下回った種目 上体起こし 立ち幅とび 長座体前屈 反復横とび 20mシャトルラン	握力・ソフトボール投げ・50m 走といった「力」と「速さ」のバランスは良好である。しかし、 <b>長座体前屈(45.3)の低さ</b> が目立つ。持っている筋力・パワーを、柔軟性という土台が支えきれていない。
体力・運動能力 <女子>	○全国平均と同程度 もしくは上回った種目 握力	○全国平均を下回った種目 上体起こし 立ち幅とび ソフトボール投げ 長座体前屈 反復横とび 20mシャトルラン 50m走	握力結果は良好だが、 <b>それ以外の全項目で市平均を下回っている</b> 。特に持久走や俊敏性の数値は「運動不足」傾向を示している。
運動・スポーツへの意識、 運動習慣	○1週間の総運動時間が「420分以上(1日1時間以上)」の児童の割合 男子 76.7% 女子 41.7%	○一方で、 <b>運動時間が「0分」の女子児童が8.3%</b> 存在しており、活発に動く層と全く動かない層の二極化が見られる。	質問紙調査にあった「運動時間 0分」の層や「 <b>痩身傾向(高度やせ 2.8%)</b> 」の影響が、実技の数値(特に持久力や筋持久力)の低さに現れている。

## 三つの取組

### ①体育・保健体育等の授業の充実

### ②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組

### ③子どもが自らの健康づくりを図る取組の充実

## 具体的な取組

- 「清南たいそう」の継続。
- 女子の運動習慣の差を考慮し、技能の優劣だけでなく「チームでの作戦」や「技の組み合わせ」など、対話と協力を重視した学習展開を増やす。
- 体育館や校舎の壁面に運動のコツを視覚的なイラストや写真で示す。
- プロのスポーツ選手による出前授業の開催し、運動への興味・関心を高める。(抽選に当たったら)

- バックネット・ストラックアウト(冬場)の設置。投擲コーナーに、数字や的を描いた「ストラックアウトボード」を設置するなど、休み時間に遊び感覚で投げる機会を増やす。
- ドッジボールコートの特設。
- 「プチ健康診断」の定期化。児童委員会が主催する「プチ健康診断」を継続して実施する。

- 女子児童の痩身傾向の結果から、養護教諭や栄養教諭と連携し「**細い=良い**」ではない健康観を、保健の授業や委員会の活動で全校に広める。
- 教師が作った掲示物だけでなく、委員会が「清南たいそうのコツ」や「投擲コーナーでの正しいフォーム」を解説するポスターを自作する。
- 助産師による出前授業。「**なぜ自分の体を鍛え、整える必要があるのか**」を「**命の大切さ**」とともに学ぶ。

## 家庭・地域との連携・協働

- ・「清南たいそう」の運動会や体育の授業参観等での披露。
- ・グラウンドやスキー場でのスキー学習において、保護者ボランティアを募集し、個に応じた指導の充実を図る。
- ・助産師さんやスポーツ選手による出前授業に保護者の自由参加を呼び掛ける。